

## 式 辞

校庭の桜のつぼみも膨らみ始め、暖かな春の訪れを告げる季節となりました。

本日ここに、本校同窓会会長 岡田 広 様をはじめ、来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、茨城県立水戸商業高等学校第 121 回卒業式を、かくも盛大に挙行できますことは、私ども職員一同、大きな喜びとするところでございます。

ただいま、卒業証書を授与いたしました 274 名の卒業生の皆さん、卒業、誠におめでとうでございます。皆さんの高校生活は、新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けましたが、仲間と協力しながら、常に前向きな気持ちで行動してくれました。この「想定外」の経験は、きっとこれからの人生において、大きな「力」を発揮するものと信じております。

さて、卒業式は、今後の人生を力強く生きていくためのスタートでもあります。これからの人生を前向きに、そして大切に送っていただきたいという期待を込めて、2つの事をお願いしたいと思います。

1つ目は、「努力する力を一層高めてほしい」という事です。この努力する力については、「全力で取り組む力」、「継続する力」、「創意工夫する力」の3つから成り立っていると言えます。「全力で取り組む力」とは、目の前のやるべき事に一生懸命に尽くす力です。しかし、全力を込めた努力であっても、それが続かなければ成果にはつながりません。そこで、「継続する力」が重要になります。どんなに小さな事であっても、継続していればやがて大きな形となります。つまり、結果がすぐに出なくても、途中で投げ出すのではなく地道に続けていくことが大切です。更に「創意工夫する力」とは、ただ、がむしゃらに頑張るだけでなく、新しい方法や柔軟な発想で、より良い方向に軌道修正をしながら行動するという事です。いくら全力で続けても、工夫する力が無ければ十分な成果とはなりません。定期的に検証と改善を重ねることで、自分の能力を伸ばし、きっと、望む結果につながるはずです。

2つ目は、「人を思いやる気持ちを持ってほしい」という事です。どんなに科学やAIなどの技術が進歩しても、最終的に重要なのはお互いを尊重する心であり、人を思いやる気持ちです。具体的には、相手の立場に立って考える、相手が理解しやすいように伝える、そして、相手の喜ぶことを意識するなどです。つまり、目の前にいる人に対して、何かできることはないか、どうすれば笑顔になってくれるのかと、誠意を持って行動する事で豊かな人間関係が創られていきます。当然、相手の立場になりきることはできませんが、思いやりの気持ちはきっと相手に伝わり、そこに「信頼」が生まれます。卒業生の皆さんには、この気持ちを大切にしながら人生を歩んでいって欲しいと思います。

私は、水戸商業高校が伝統校としてあり続けられるのは、水商に対する同窓生、保護者、地域の方々の「熱い思い」があるからだと感じています。様々な場面で、生徒を励まし支えてくれていることが、水商生にとってどれだけ「力」になっているか分かりません。また、本校の職員の「思い」もあります。先生方は、水商で教える事に誇りと使命感を持って、生徒の皆さんにしっかりと向き合っています。当然ですが、皆さんが高校生活の中で、多くの「出会い」を通して、自身の可能性を広げ未来を切り拓いていこうとする積極的な姿勢があるからです。これらが相まって、水商という「校風」を創りあげているんだろうなと実感している所です。今後とも、つないでいて欲しい「思い」です。

結びになりますが、卒業生の皆さん、健康には充分留意して、自分の道を一步ずつしっかりと進んでください。皆さんのこれからの人生に、幸多からん事を祈念し式辞と致します。

令和6年3月6日

茨城県立水戸商業高等学校長

山本 俊之